

人星亭喜楽駄米（じんせいいてい きらくだべえ）プロフィール

1955年生まれの美男子。ひつじ年。両親ともに大仙市出身。父は旧大曲市四ッ屋出身で母は旧神岡町出身という生粋の仙北人。雄物川で産湯をつかい、山羊の乳で育った幼少期。神宮寺の酒饅頭と昔飲んだ「渡辺のジュースの素・メロン味のソーダラップ」が大好きだった少年期。S.Lの機関士だった自慢の父は、田んぼで遊んでいる私に向かって汽笛を鳴らしてくれたんです。かたや泥だらけになって遊んで帰ってきても小言一つ言わず暖かいご飯を用意してくれたお袋。いい時代でしたね。

そんな私がなんと男鹿在住の人星亭喜楽駄朗師匠をお笑いの神様と師事し、令和2年に弟子入り。実は私、秋田県と埼玉県を歴任した元お巡りさん。なんか元がつくと、やらかした？と思いきや何もしてないかなり堅物（かたぶつ）な人間。今なんか少年保護育成委員もやっている怪しい人間なんです、実のところ私が保護されそうな親父なんです。

一方、師匠は秋田県庁出身で福祉のプロだったという、お互いがお堅い職場出身同士。職種とは真逆のお笑いに魅力を感じた二人がすっかり意気投合しちゃいました。

私はと言えば、バンドライブ中の休憩タイムで披露したお笑いネタが本編以上に受けてしまい、それ以来ウクレレ漫談に熱が入ってしまったんです。ギターやウクレレは息子の部屋を整理していた際に発見した遺物のような骨董品。高校時代の白いギターブームが再燃したかのような思いでした。

私の芸風に影響を及ぼした恩人は3人。一人は昭和のお笑いレジェンド「牧伸二さん」。二人目は50代以上の人だったら知っているであろう、あの「五城ノ目のトメさん」こと小玉進さん。何度か共演した思い出が懐かしい。そして三人目は喜楽駄朗師匠というわけです。

私のネタは、寝た時に作る？政治経済、スポーツなど社会風刺を交えた、ジャンルにとらわれない古今東西「イキのいいウクレレ漫談」が真骨頂、もちろんちょっぴりお色気物も殿方次第。

さらに、人星亭一門会テーマソング「幸せやってくる」を作詞作曲するなど創作活動に強い関心を持つお米大好き人間なのです。最近では、男鹿を題材にした演歌「能登山の椿」という曲も作っちゃいました。私の漫談は腹がよじれても決して責任は持てません。この際、健康保険証とお薬手帳を持参してお聞きくだされば幸いです。

さあ、今日はどんな芸を見せてくれるでしょうか。皆さんにウクレレ漫談で幸せを呼ぶ男。お笑い伝道師、55番弟子・喜楽駄米に、どうぞ期待。

